

年頭所感

新年挨拶



おおさか市町村職員研修研究センター所長 齊藤 慎

平成24年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、良き新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は自然災害の多発や、深刻な経済問題、政治問題など、歴史的にも、また世界的にみても激動の一年だったといえます。いろいろな面での激動はまだまだ続きそうですが、今年こそは皆様にとって良き年になってほしいと切に願っております。

人間はたいへんな環境の中でこれまでたくましく生きてきました。自然環境に適応し、自ら科学や技術を発展させ、住みやすい世界を目指してきました。科学の進歩は著しく、人間の「身の丈」を遙かに超えた感があります。十数年前には想像もできなかったほどインターネットや携帯の有効性は経済活動や日常生活に溶け込んでいるように思います。しかし、恐らく多くの人にはiPS（人工多能性幹細胞、2006年）細胞や素粒子のニュートリノが光よりも速く飛ぶ（昨年9月の実験結果）といわれてもぴんときないでしょうし、このことが人類の将来にどのような影響を及ぼすかについてはもっと分からないと思います。もちろん、科学の最先端を理解できる人が一部に限られることは珍しいことではありませんが、iPSが再生医療に繋がるのではないかと期待されていますし、ニュートリノの実験結果が正しいとすれば、アインシュタインの相対性理論の前提を覆す可能性を秘めています。

一方で、社会科学でも急激な変化が起っています。これまで一般理論を目指してきた経済学においても、各論である行動経済学、神経経済学や金融工学も急速に進展しています。これらの分野の大きな特徴は、心理学・医学・数理工学・マーケティングなど他分野との関連が深まっていることです。2009年11月に邦訳が刊行された『フリー〈無料〉からお金を生みだす新戦略』（クリス・アンダーソン著、小林弘人監修、高橋則明訳、日本放送出版協会 2009年）は書籍が無料で提供される（もちろん限定部数）という前例の無い刊行形式と相俟って、その内容が大きな話題となりました。第6章のタイトルである「情報はフリーになりたがる」は、現在ではウェブ上では当然のこのように思われています。以前であれば、公共財・サービスは無料（直接負担なし）であるが、民間財・サービスは有料と区分して考えられてきたのですが、その見方を一変させたといえます。それでは、無料なのになぜビジネスとして成立するかについては『フリー』を参照して頂きたいのですが、現実にビジネスとして成立していることは、携帯ゲームサイト運営会社がプロ野球球団を買収することから理解されます。

しかし、これらの華麗ともいえる研究結果が多くのことを明らかにすることは裏腹に、世の中は分からないことだらけ、あるいは分からないことがかえって増えているようにみえます。金融工学の進歩がリーマンショックを引き起こしたという見方をされることがあります、本当は金融工学が実践的に役に立つためにはもっと進歩すべきなのでしょう。

さらに問題を複雑にさせているのは、グローバル化や経済的・政治的相互依存関係が急激に進み、これまでであればそれほど考えなくて良かったことが、重要な要素となってきたことでしょう。かつてであれば、ギリシャの破綻可能性はこれほどまで多くの国に影響を与えなかったと思われまます。ギリシャは「1800年から第2次世界大戦後までずっとデフォルト状態だったと言ってよく」(C.M.ラインハート・K.S.ロゴフ著、村井章子訳『国家は破綻する』日経BP社 2011年)といわれるほどもともと財政状況が悪い国ですが、世界を不況に陥れることはありませんでした。

このように、科学技術の進歩とグローバル化等が確実にビジネスの世界を大きく変化させているのに、人間や人間の造った制度がこのような状況に適応できていないことが最大の問題と思われまます。

これらを解決するためには、やはり教育が重要と思えまます。教育には、その時点での科学技術の知識を伝承するという面と、新しい時代に向けて考える力を養うという二つの大きな側面があります。ICT(情報通信技術)の進歩が著しい現代では、前者の教育が重要であることはいうまでもありません。しかし、ここまで述べてきたように、今後必要とされるのは「広い視野を持って考える力」を養うことではないでしょうか。前例のない事態に遭遇することがこれから増えるように思われまます。どうすれば、「たくましく」生きることができるのかを考える力の育成が教育に求められています。

マッセOSAKAは公益財団法人になりましたので、市町村職員や住民に役立ち、「考える力」養成につながる研修・研究組織として、これまで以上に努力してまいりたいと考えております。それがマッセOSAKAの使命であり、活動を通じて大阪府内市町村の活性化につながればと願っております。

最後になりましたが、本年が素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を祈念致しまして年頭のご挨拶といたします。